

『子どもは誰のもの』



鎌田 基予子委員

近年はデジタルカメラの普及も手伝って、思い出を撮って残すという方がかなり増えて
います。私は4人の子どもを育てていますので、入園式から始まり各種行事まで含
めると、これまで幾度ものシャッターチャンスの場合に立ち会わせてもらっていま
すが、こういった場でも年を追うごとに、カメラマンの数が増え続けているように思
うのです。目の前にいるのが我が子ではなくアイドル？そんな錯覚を起こしてしまう
ような芸能人の記者会見さながらの光景に、少し戸惑いを感じているのは私だけ
でしょうか。かく言う私も、お手軽なスマホで思い出のひとつコマをパシャリと
カメラに収める現代の親ですので、弁解の余地はないのですが…目の前の我が
子がいつまでも自分たちのファインダーの中に収まっていない事を、みなさん
承知しているのかなと、余計な心配をしてしまうのです。

私たち保護者は、子育ての出口をイメージ出来ているでしょうか。

親が我が子に注ぐのは無償の愛で、ある意味本能によるものです。『社会に役立つ人、明日の日本を担う
人材を』そんな大義のもとに子育てをするのは難しそうですが、義務教育の出口が、
社会に出て生きて行く力をつけるところにあるのなら、教育の現場は、保護者とその意識を共有する努力を必要とされているように
思います。

出口のイメージをぼんやりとでも意識づけられたら、子どもとの距離や立ち位置が、少し変わってくるか
もしれません。

『我が子が社会でどう生きて行くのか』

それを支える親でありたいと思うのです。

総務文教委員と教育委員との語る会

本年度で6回目となる恵那市議会総務文教委員と、教育委員の語る会を平成27年7月24日に開催しました。

がやがや会議形式で、教育行政について総務文教委員から提案された5つのテーマについて意見交換しました。テーマは①こども園の現状と課題と改善点、②学校の統廃合、③市内中学校における私学への入学状況、④不登校児童・生徒の現状、⑤小・中学校の生徒数による学力差について、事務局より説明を行いました。

総務文教委員から、本年度より始まったこども園について質問があり、教育委員長が何事もなく始まり、保育園、幼稚園のいいところを取り入れて実施しているこども園の現状を報告しました。

学校統合については、教育委員から教育委員会訪問した際に、中学生の時期に少人数学級の状況はこれくらいのかと考えさせられた。総務文教委員からは、小学校と中学校の教育の違いを市民にしっかり説明をすることが大事であるなどのご意見をいただき、約2時間半にわたって活発な意見交換が行われました。



教育・発達相談センター「あおば」

*** 学校教育課 ***

本年度から、「教育相談」「適応指導」と「発達相談」を統括的に実施するため、教育・発達相談センター「あおば」が発足しました。

「教育相談室・適応指導教室」は主に不登校など、学校生活への適応に関すること、「発達相談」はこどもの発達関係についての相談を行っています。「困ったな。こどものことで相談したいけど、どこへ相談したらいいかな。」という時には、まず電話をかけてみてください。

教育・発達相談センター「あおば」は、こども園や幼稚園・保育園、小・中学校、その他の関係機関と連携をとりながら、途切れのない支援を目指して発達や不登校等についての相談を行っています。お子さんについて心配なことがありましたら気軽にご相談ください。

教育・発達相談センター「あおば」 ☎ 0573-25-1154



安心・安全な学校給食

*** 恵那市学校給食センター ***

恵那市では、恵那市学校給食センターを（財）恵那市施設公社に（昭和61年4月～配送業務、昭和62年4月～調理業務）、山岡学校給食センターは昨年10月から民間企業に調理配送業務を委託しました。

本年度は、岩村学校給食センターと明智学校給食センターの調理及び配送業務を10月から民間委託するために準備を進めています。

今後も恵那市の4つの学校給食センターでは「安心・安全な給食」を、児童・生徒等のみなさんに食べていただけるよう職員一同がんばってまいりますので、よろしくお願いします。



【キャベツの昆布あえの調理の様子】



【フライヤーで鱧^{はち}と南瓜の天ぷらの調理】